

金子民雄さん講演会、開催のご案内

(第26回雲南懇話会、2013年10月1日(火))

中央アジア史と東南アジア史の研究・その現地調査を続けておられる金子民雄さんをお招きしての講演会を、下記のとおり開催致しますのでご案内申し上げます。

記

1. 日 時 ; 2013年10月01日(火) 15時15分~17時30分、茶話会 ; 17時30分~18時45分
2. 場 所 ; JICA 研究所 2階大会議室 (東京・市ヶ谷 <http://jica-ri.jica.go.jp/ja/about/access.html>)
3. 演 題 ; 「19世紀のペルシアを旅した ヨーロッパの旅行家たち」
ー バンベリー、ヘディン、サイクス、スタイン、カーゾン と、明治前期の日本人の旅行記を中心に

4. 内 容 ; 2部構成とし、冒頭と第2部の終了後に、スライドショーを行いません。

(1) 第1部 「ペルシアに入った日本人、ペルシアを通ったマルコポーロの東方見聞録、
暗殺者教団、オマルハイヤムとルバイアート」 50分

第2部 「バンベリー、ヘディン、サイクス らと、カーゾン卿」 40分

(2) 講 師 ; 金子 民雄 歴史家・中央アジア研究家

(3) スライドショー ; 冒頭で、金子さん所蔵の稀観書(紹介する人たちの旅行記)の書影と掲載図版を、
第2部後に、「イランの現況と、自然・遺跡・人々-附:19世紀の史料に見る踏査小史」について。

国土地理院客員研究員 長岡正利

5. 講演要旨 (原文のまま)

今日 お話しようと思っております中東のイランは、かつてペルシャと呼ばれていて、イランと改名されたのは、1935年(昭和10年)のことでした。

なにしろペルシャは歴史が古いので、様にはいきません。私にも古いイランの歴史は専門ではありませんので、とくに19世紀以降にこの国を旅し、その実情を紹介した人々を通して、彼らの体験を中心にご紹介してみたいと思っております。

時間が限られていますので、貴重で得難い資料を遺してくれた、私の選んだ代表的な人々についてふれてみたいと思います。後のインド総督となったカーゾン卿、ペルシャのローレスと言われた パーシー・サイクスと妹の旅行家エラ・サイクス。巡礼者としてペルシャをめぐるヴァーンベリー、また彼を私淑したスヴェン・ヘディンなど。時間が許してくれたら、日本人の吉田正春、古川宣誉、福島安正にもふれてみます。

6. 講演スケジュール

- (1) 14時45分 開場 (受付開始)
- (2) 15時15分 開会 冒頭の10分間程度、金子さん所蔵書の書影と掲載図版をスライドで紹介。
- (3) 15時25分 ~ 16時15分 (50分間) 金子民雄さんによるご講演 (第1部)
- (4) 16時15分 ~ 16時35分 (20分間休憩) Tea Time! Wine の用意があります。
- (5) 16時35分 ~ 17時15分 (40分間) 金子民雄さんによるご講演 (第2部)
- (6) 17時15分 ~ 17時35分 (20分間) 「イランの現況等」について、長岡さんのスライド紹介。
- (7) 17時35分 ~ 18時45分 茶話会 (乾杯ナシ、流れ解散とします。)

7. 参加費用 ; @5,000円 (茶話会費用1,500円を含みます。)

8. 定 員 ; 20~25名程度

以上